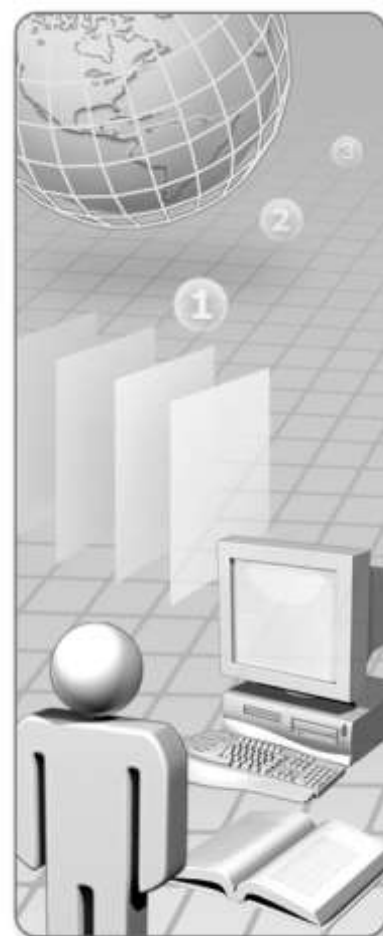


## Windows Server 2008 Server Core RC1 について

### 目次

準備	1
演習のセットアップ	1
練習 1	3
練習 2	7
関連リソース	21
Technology Adoption Program サポート	24



このドキュメントに記載されている情報 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メールアドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものであります。実在する商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。このドキュメントのいかなる部分も、米国 Microsoft Corporation の書面による許諾を受けることなく、その目的を問わず、どのような形態であっても、複製または譲渡することは禁じられています。ここでいう形態とは、複写や記録など、電子的な、または物理的なすべての手段を含みます。ただしこれは、著作権法上のお客様の権利を制限するものではありません。

製造元の名称、製品、または URL は情報提供の目的のみに記載しており、マイクロソフトは、これらの製造元または何らかのマイクロソフトのテクノロジーを備えた製品の使用に関し、明示、黙示あるいは法律上の保証を問わず、表明または保証を行うものではありません。製造元または製品が記載されていても、マイクロソフトがその製造元または製品を保証していることを意味するものではありません。第三者のサイトへのリンクも記載しています。リンク先のサイトはマイクロソフトが管理するものではなく、したがって、リンク先のサイトの内容、含まれるリンク、およびそのサイトの変更や更新について、マイクロソフトは責任を負うものではありません。また、リンク先のサイトから受信する Web キャストまたはその他の伝送形式についても、責任を負うものではありません。これらのリンクは、お客様の利便性を考慮して提供されているものであり、マイクロソフトがそのリンクの内容を保証していることを意味するものではありません。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

Copyright © 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

## 準備

### 演習の予定所要時間

45 分

### 目的

この演習の目的は、Server Core 機能および Microsoft Windows Server Core 2008 の機能を、コマンドラインを使用して説明することです。

この演習を修了すると、次のことを習得できます。

- コンピュータ名、IP アドレス、ファイアウォール、サービスなど、コンピュータの特定の情報を表示および構成する
- Windows Server Core を構成し、ドメイン環境でのネットワークの役割 (DNS、DHCP、ファイルサーバーなど) を提供する

### 前提条件

この演習を行うには、次の条件を満たしている必要があります。

- Windows Server 2008 の Server Core インストールでは、コマンドラインを使用して初期構成を行う必要があります。Server Core インストールには、従来の完全なグラフィカルユーザーインターフェイスが含まれません。構成後は、サーバーをコマンドラインからローカルで管理したり、ターミナルサーバー接続を使用してリモートで管理したりできます。また、リモートでの使用をサポートする Microsoft 管理コンソール (MMC) やコマンドラインツールを使用して、サーバーをリモートで管理することもできます。
- この演習では、インストールされたばかりの Windows Server Core の環境設定を行います。

## 演習のセットアップ

### 演習のシナリオ

あなたは、組織の中で Windows Server Core のインストールと構成を担当しています。Server Core のインストールと構成を行い、特別なツールやスクリプトを作成せずに、現在の Active Directory インフラストラクチャに DNS、DHCP、ファイルサーバーなどの役割を提供する必要があります。このサーバーをすばやくオンラインにして構成できる必要があります。

以下に示す 2 つの実践的な練習を行い、上記の各目的を達成します。

### Virtual Server

この演習では Microsoft Virtual Server 2005 R2 を使用します。このアプリケーションでは、同じ物理ハードウェア上で複数の仮想コンピュータを実行できます。演習中は、Microsoft Windows Server® 2008 を実行するバーチャルマシン

ンが個別に含まれる、異なるウィンドウ間で切り替えを行います。

演習を始める前に、以下に挙げる **Virtual Server** の基本操作を習得してください。

- マウスとキーボードのフォーカスをバーチャル マシンに切り替えるには、バーチャルマシン ウィンドウの内部をクリックします。
- バーチャルマシンからフォーカスを外すには、マウス ポインタをバーチャルマシン ウィンドウ外に移動します。
- **Ctrl + Alt + Del** キーの組み合わせと同じ操作をバーチャルマシン内で行うには、右 **Alt** キーを押しながら **Del** キーを押します。**Virtual Server** では、右 **Alt** キーをホストキーと呼びます。

### 演習に使用するコンピュータ

この演習では、次の表に示す 2 台のコンピュータを使用します。演習を始める前に、バーチャルマシンを起動し、コンピュータにログオンする必要があります。各練習で必要な操作は、必要なバーチャルマシンを起動することだけです。

バーチャルマシン	コンピュータ名	ユーザー名	パスワード	ドメイン
NYC-DC-1	NYC-DC-1	Administrator	pass@word1	Woodgrovebank.com
NYC-SC-1	LHSC1	Administrator	pass@word1	ローカル
NYC-SC-2	NYC-SC-2	Administrator	pass@word1	Woodgrovebank.com

役割	機能	IP	サブネット	DNS
AD、DNS、ファイナルサーバー	なし	192.168.1.1	255.255.255.0	192.168.1.1
基本 Server Core	なし	DHCP	DHCP	設定なし
Server Core	なし	192.168.1.3	255.255.255.0	192.168.1.1

### バーチャルマシン内のコンピュータへのログオンするには

1. (**Ctrl + Alt + Del** キーの代わりに) 右 **Alt** キーを押しながら **Del** キーを押し、ログオンダイアログボックスを開きます。
2. 次の情報を入力し、**[OK]** をクリックします。
  - ユーザー名 : Administrator
  - パスワード : pass@word1
  - ドメイン : Woodgrovebank.com (ドメインにログオンする場合)

## 練習 1 Server Core を構成する

Server Core インストールには、Windows のユーザー インターフェイスが含まれていないため、代わりに、次の手順に従って、コマンドラインツールを使用して構成を手動で完了する必要があります。

### 注意

インストール中は、無人セットアップを使用してこれらの設定を構成できません。無人設定の詳細については、¥Docs フォルダのインストールメディアにある `deploy.chm` ファイルおよび `ref.chm` ファイルを参照してください。

### 注意

すべてのコマンドプロンプトを閉じている場合は、右 **Alt** キーを押しながら **Del** キーを押し、[タスク マネージャの起動] をクリックし、[ファイル] メニューの [新しいタスクの実行] をクリックして、**cmd.exe** と入力します。または、ログオフしてから再びログオンします。

### 注意

この演習で使用するコンピュータは 2 台の **Server Core** マシンです。これには理由があります。バーチャルラボに用意された環境では再起動が制限されています。このことは、演習におけるドメイン参加作業に影響します。**NYC-SC-1** はドメイン参加まで、**NYC-SC-2** はドメイン参加後の作業をするために用意されていることに注意してください。**NYC-SC-2** にはドメイン参加までの作業が全て適用された状態で提供されています。

### 注意

日本語の入力が正しく行えない場合は、コマンドプロンプトの再起動をお願いいたします。

---

**注:** この演習の目的および時間の節約のために、サーバーの一部の構成は既に完了しています。

### 基本情報を確認する

1. トップ ページで、[NYC-SC-1] をクリックして選択します。
2. パスワード **pass@word1** を使用して **Administrator** (ローカル管理者) としてログインします。ログオンダイアログボックスを表示するには、右 **Alt** キーを押しながら **Del** キーを押します。
3. コマンドプロンプトで **whoami** と入力し、**Enter** キーを押します。
4. "**lhsc1¥administrator**" (ローカル管理者) と表示されていることを確認します。
5. **set c** と入力し、**Enter** キーを押します。"**COMPUTERNAME=LHSC1**" と表示されていることを確認します。**set** と **c** の間には、半角の空白が入ります。

6. **set u** と入力し、**Enter** キーを押します。"USERDOMAIN=LHSC1" (ローカル コンピュータ) および "USERNAME=Administrator" (ローカル管理者) と表示されていることを確認します。set と u の間には、半角の空白が入ります。
  7. **ipconfig /all** と入力し、**Enter** キーを押します。"DHCP 有効" が "はい" となっていることを確認します。
- 

### タスクマネージャを使用してコマンドプロンプトを再起動する

Server Core ではタスクマネージャを使用して新しいコマンドプロンプトを起動することができます。

1. Exit コマンドを使用して、現在表示されているコマンドプロンプトを終了します。これにより画面には何も表示されていない状態になります。
2. (Ctrl + Alt + Del のかわりに) 右 Alt + Del を押し、「タスクマネージャの起動」をクリックします
3. [アプリケーション]タブを表示し、[新しいタスク]をクリックします
4. [名前]に「cmd.exe」と入力して[OK]をクリックすると、新しいコマンドプロンプトが表示されます

### 静的 IP アドレスおよび DNS を設定する

1. **Netsh interface ipv4 show interfaces** と入力します。
2. ネットワーク アダプタの出力の Idx 列に表示されている番号をメモします。コンピュータに複数のネットワーク アダプタが搭載されている場合は、静的 IP アドレスを設定するネットワーク アダプタに対応する番号をメモします (2 のはずです)。
3. **netsh interface ipv4 set address name="2" source=static address=192.168.1.2 mask=255.255.255.0 gateway=192.168.1.1** と入力します。
4. **netsh interface ipv4 add dnsserver name="2" address=192.168.1.1 index=1** と入力します。
5. **ipconfig /all** と入力し、**Enter** キーを押します。IPv4 アドレスが **192.168.1.2**、DNS サーバーが **192.168.1.1** に設定されていることを確認します。

#### 注意

本番環境では、設定する各 DNS サーバーに対して手順 4. を繰り返すことで、DNS サーバーのエントリを増やすことができます。手順 4. を実行するたびに、*index=number* の値を増やしていきます。

#### 注意

間違ったネットワーク アダプタで静的 IP アドレスを設定した場合は、コマンド **netsh interface ipv4 set address name="ID" source=dhcp** を使用すると、

DHCP によって提供されたアドレスを使用するように変更を元に戻すことができます。ID には、上記の手順 2. でメモしたネットワーク アダプタの番号を指定します。

---

## ファイアウォールを構成する

1. **netsh firewall set opmode ENABLE** と入力し、**Enter** キーを押します。これにより、ファイアウォール サービスが有効になります。
2. **netsh firewall set icmpsetting 8 ENABLE** と入力し、**Enter** キーを押します。これにより、他のコンピュータから "ping" を実行できます。
3. **netsh advfirewall set currentprofile settings remotemanagement enable** と入力し、**Enter** キーを押します。これにより、Windows ファイアウォールの MMC スナップインを使用して、Server Core ベースのサーバー上のファイアウォールをリモートコンピュータから管理できるようになります。
4. **netsh advfirewall firewall set rule group="リモート管理" new enable=yes** と入力し、**Enter** キーを押します。これにより、リモートコンピュータの MMC からスナップインを使用して各種サービス (DNS や DHCP など) を構成できるようになります。

5.

### 注意

なお、netsh コマンドの詳細情報を取得するには、/? スイッチを使用してください。

---

## コンピュータをドメインに参加させる

1. **netdom join LHSC1 /domain:woodgrovebank.com /user:dbarber /passwordd:\*** と入力します。

```

Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe - netdom join LHSC1 /domain:WOODGROVEBANK /USE...
> exit

C:\Users\Administrator>set c
CommonProgramFiles=C:\Program Files\Common Files
COMPUTERNAME=LHSC1
ComSpec=C:\Windows\system32\cmd.exe

C:\Users\Administrator>set u
USERDOMAIN=LHSC1
USERNAME=Administrator
USERPROFILE=C:\Users\Administrator

C:\Users\Administrator>netsh interface ipv4 set address name="2" source=static address=192.168.1.2 mask=255.255.255.0 gateway=192.168.1.1

C:\Users\Administrator>netsh interface ipv4 add dnsserver name="2" address=192.168.1.1 index=1

C:\Users\Administrator>netdom join LHSC1 /domain:WOODGROVEBANK /USER:dbarber /password:*
Type the password associated with the domain user:

```

2. パスワードの入力を求められたら、dbarber のパスワード **pass@word1** を入力し、**Enter** キーを押します。

#### コンピュータ名を設定する

1. NETDOM RENAMECOMPUTER LHSC1 /NewName: NYC-SC-1 と入力します。
2. **Y** キーを押し、**Enter** キーを押します。もし「ネットワーク名が見つかりません」などのエラーが発生する場合には、4. に示す手順でサーバーを再起動後に、1. から再実行してください。
3. コマンドが正常に完了したことを確認します。
4. **shutdown /r /t 0** と入力し、**Enter** キーを押します。サーバーが再起動され、参加したドメインにログオンできるようになります。

#### 注意

NETDOM RENAMECOMPUTER によって、コンピュータ名が変更されます。コンピュータがドメインに参加している場合は、ドメイン内のコンピュータ オブジェクトの名前も変更されます。証明機関などの特定のサービスは、変更後のコンピュータ名で引き継がれます。この種のサービスが対象のコンピュータで実行されている場合にコンピュータ名を変更すると、悪影響を及ぼします。このコマンドは、ドメインコントローラの名前の変更には使用しないでください。

#### コンピュータがドメインに参加したことを確認する

1. NYC-SC-1 バーチャル マシンの再起動中に、NYC-DC-1 バーチャル マシンで次の手順を実行します。
2. パスワード **pass@word1** を使用して WOODGROVEBANK¥Administrator としてログインしていることを確認します。
3. NYC-DC-1 バーチャル マシンで、[スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] をポイントして、[Active Directory ユーザーとコンピュータ] をクリックします。



4. [WOODGROVEBANK.com] ノードを展開し、[Computers] ノードをクリックします。新しいドメインのコンピュータ アカウント NYC-SC-1 が作成されていることを確認します。必要に応じてウィンドウを最新の情報に更新します。
5. [Active Directory ユーザーとコンピュータ] コンソールを閉じます。

バーチャルラボの制限により、NYC-SC-1 の再起動後はネットワークがしようできなくなります。そのため、ここからの作業は NYC-SC-2 で行ってください。NYC-SC-2 にはこれまでの演習内容が全て適用されています。

NYC-SC-2 でドメイン ユーザー **dbarber** をローカル **Administrators** グループに追加する

1. NYC-SC-2 に管理者としてログオンします。
2. ドメイン ユーザー アカウントをローカル **Administrators** グループに追加するために、コマンド `net localgroup administrators /add woodgrovebank\dbarber` を実行して、**Enter** キーを押します。
3. **LOGOFF** と入力し、コンピュータをログオフします。

コンピュータに新しい設定が適用されたことを確認する

4. NYC-SC-2 で、パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK\dbarber** としてログインします。ユーザー名が既に入力されている場合には、最初に、[ユーザーの切り替え] をクリックし、[他のユーザー] をクリックして、**WOODGROVEBANK\dbarber** とパスワード **pass@word1** を入力してください。
5. **set c** と入力し、**Enter** キーを押します。"**COMPUTERNAME= NYC-SC-2**" と表示されていることを確認します。
6. **set u** と入力し、**Enter** キーを押します。"**USERDOMAIN=WOODGROVEBANK**" (WOODGROVEBANK ドメインに参加) および "**USERNAME=dbarber**" (ドメイン管理者) と表示されていることを確認します。

## 練習 2

### Server Core でサーバーの役割をインストールする

Server Core インストールが完了し、サーバーを使用できるように構成したら、サーバーの役割をインストールします。Windows Server 2008 Server Core では、次のサーバーの役割がサポートされます。

- Active Directory Domain Services (AD DS)
- Active Directory Lightweight Directory Services (AD LDS)
- DHCP サーバー
- DNS サーバー
- ファイルサーバー
- プリントサーバー

- ストリーミングメディアサーバー
- WEB サーバー (IIS)

サーバーの役割を構成するためのコマンドラインツールの詳細については、この演習マニュアルの最後にある「関連リソース」の一覧を参照してください。

ここでは、上記の各サーバーの役割に関する手順を説明します。必要な操作は、インストールするサーバーの役割に関する手順を完了することだけです。

### Server Core でサーバーの役割をインストールするための前提条件

この作業を完了するには、以下のものがが必要です。

- Windows Server 2008 の Server Core インストールをインストールおよび構成したコンピュータ。
- Server Core インストールを実行しているサーバーの、管理者のユーザーアカウントとパスワード。
- DHCP サーバーのインストールと構成を行う場合は、DHCP スコープの構成に必要な情報と、静的 IP アドレスを使用するように構成された Server Core インストールを実行するサーバー。
- DNS サーバーのインストールと構成を行う場合は、DNS ゾーンの構成に必要な情報。
- Active Directory のインストールと構成を行う場合は、既存のドメインへの参加または新しいドメインの作成に必要な情報。
- Server Core インストールを実行するサーバーを Active Directory ドメインのドメインコントローラに昇格させる場合は、ドメイン管理者のユーザー名とパスワード。

### サーバーの役割として DNS をインストールする

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. **Start /w ocsetup DNS-Server-Core-Role** と入力し、**Enter** キーを押します。DNS-Server-Core-Role が DNS 役割を表しています。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドが終了しても、インストールされたことを示すメッセージは表示されません。

#### 注意

**Start /w ocsetup DNS-Server-Core-Role /uninstall** と入力すると、DNS サーバーの役割がアンインストールされます。また、このコマンドでは大文字と小文字が区別されます。

**DNS サーバーを管理するには**、コマンドラインで **dnscmd** を使用するか、DNS の MMC スナップインをリモートから使用して、DNS ゾーンを構成できます。

3. **dnscmd /?** と入力し、**Enter** キーを押します。使用できるコマンドの一覧が表示されることを確認します。
4. **dnscmd /info** と入力し、**Enter** キーを押します。このコマンドでは、DNS サーバーのすべての情報が表示されます。

---

### サーバーの役割として DHCP をインストールする

1. NYC-SC-2 バーチャル マシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. **Start /w ocsetup DHCPSeverCore** と入力します。DHCPSeverCore が役割を示す文字列となります。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドが終了しても、インストールされたことを示すメッセージは表示されません。

#### 注意

**Start /w ocsetup DHCPSeverCore /uninstall** と入力すると、DHCP サーバーの役割がアンインストールされます。

DHCP サーバーを管理するには、コマンドラインから netsh を使用するか、DHCP の MMC スナップインをリモートから使用して、DHCP スコープを構成する必要があります。DHCP サーバーが Active Directory ドメインにインストールされている場合は、Active Directory で承認される必要があります。

3. **netsh dhcp /?** と入力し、**Enter** キーを押します。使用できるコマンドの一覧が表示されることを確認します。
4. **netsh dhcp list** と入力し、**Enter** キーを押します。使用できるコマンドの一覧が表示されることを確認します。
5. **netsh dhcp show server** と入力し、**Enter** キーを押します。詳細を確認します。ここでは、まだ DHCP サーバーが承認されていないため、「0 サーバー」と表示されるはずです。
6. Active Directory に DHCP サーバーを登録して承認するには、**netsh dhcp add server nyc-sc-2.woodgrovebank.com 192.168.1.3** と入力します。
7. **Netsh dhcp show server** と入力し、承認されたサーバーの一覧に NYC-SC-2 が表示されることを確認します。

#### 注意

NYC-SC-2 バーチャル マシンは、Active Directory での DHCP サーバーの構成と承認が完了し、DHCP サービスが開始されたことを確認するまでは、運用可能な DHCP サーバーとして表示されません。


---

### サーバーの役割としてファイルサーバーをインストールする

1. ファイルサーバーの役割は既定でインストールされ、既定で管理ツールの管理用共有を提供しますが、Firewall により接続がフィルタされていること


に注意してください。ファイルサーバーの追加機能をインストールするには、次の手順を実行します。

2. NYC-SC-2 バーチャルマシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。

 **注意**

コマンドが正常に完了したことを通知するテキストは表示されません。ただし、コマンドの実行が終了していないのに、次のコマンドを実行しようとする、警告ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、数秒間待ってから、コマンドを再実行してみてください。

3. ファイルレプリケーションサービスの場合は、**Start /w ocsetup FRS-Infrastructure** と入力し、**Enter** キーを押します。
4. 分散ファイルシステムレプリケーションの場合は、**Start /w ocsetup DFSR-Infrastructure-ServerEdition** と入力し、**Enter** キーを押します。
5. ネットワークファイルシステムの場合は、**Start /w ocsetup ServerForNFS-Base** と入力し、**Enter** キーを押します。

 **注意**

上記のコマンドで **/uninstall** スイッチを使用すると、対象のファイルサーバーの役割のオプションがアンインストールされます。

 **注意**

一部のコマンドでは、大文字と小文字が区別されます。また、コマンドによっては、コンピュータの再起動を求めるダイアログボックスが表示される場合があります。この演習では、[いいえ]をクリックしてください。

---

## サーバーの役割としてプリントサーバーをインストールする

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. プリントサーバー役割をインストールするには、**Start /w ocsetup Printing-ServerCore-Role** と入力します。Printing-ServerCore-Role が役割を示す文字列となります。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドの終了後、サーバーの再起動を促すメッセージが表示されますが、ここでは再起動を行わないでください。

 **注意**

**Start /w ocsetup Printing-ServerCore-Role /uninstall** と入力すると、プリントサーバーの役割がアンインストールされます。

3. ラインプリンタデーモン (LPD) 役割をインストールするには、**Start /w ocsetup Printing-LPDPrintService** と入力します。Printing-LPDPrintService が役割を示す文字

列となります。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドの終了後、サーバーの再起動を促すメッセージが表示されますが、ここでは再起動を行わないでください。

 **注意**

**Start /w ocsetup Printing-LPDPrintService /uninstall** と入力すると、ラインプリンタデーモンの役割がアンインストールされます。

---

## サーバーの役割として AD LDS をインストールする

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. **Start /w ocsetup DirectoryServices-ADAM-ServerCore** と入力します。  
DirectoryServices-ADAM-ServerCore が役割を示す文字列となります。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドが終了すると、再起動を促すメッセージが表示されますが、ここでは再起動を行わないでください。

 **注意**

**Start /w ocsetup DirectoryServices-ADAM-ServerCore /uninstall** と入力すると、AD LDS の役割がアンインストールされます。

## サーバーの役割として Active Directory をインストールする

Active Directory の役割をインストールするには、**dcpromo** コマンドと無人セットアップファイルを使用してサーバーをドメインコントローラに昇格させます。無人の **dcpromo** に関する情報へのリンクについては、このドキュメントの最後にある「関連リソース」を参照してください。

 **注意**

次の手順は情報提供のみを目的としているため、この演習では実行しません。実際のインストールでは、コマンドプロンプトで、次のテキストを入力します。

**Dcpromo /unattend:Unattendfile**

説明：

*Unattendfile* には、**dcpromo** の無人ファイルの名前を指定します。

 **注意**

Dcpromo は、ドメインコントローラをサーバーに降格させる場合にも使用できます

## サーバーの役割としてストリーミングメディアサービス役割をインストールする

### 注意

この環境はインターネットに接続することができないため、情報提供のみを目的としています。

1. NYC-SC-2 バーチャル マシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. Internet Explorer が使用可能な他のコンピュータを使用して以下のサイトにアクセスし、「Windows Server 2008 に Windows Media サービスをインストールする方法」を参照します。

<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=88046>

手順を確認後、サイトに書かれたダウンロードサイトから、Windows Media サービスのスタンドアロンパッケージ (Windows6.0-KB934518-x86-Core.msu) をダウンロードします。

3. installerfilename.msi を NYC-SC-2 にコピーします
4. NYC-SC-2 のコマンドプロンプト上で、`start /w wusa Windows6.0-KB934518-x86-Core.msu` を実行します。途中、ダイアログが表示されるので[OK]をクリックします。
5. `start /w ocsetup MediaServer` コマンドを実行します。

### 注意

`Start /w ocsetup MediaServer /uninstall` と入力すると、ストリーミングメディアサービス役割がアンインストールされます。

## サーバーの役割として WEB サービス (IIS) 役割をインストールする

1. NYC-SC-2 バーチャル マシンで以下の手順を実行します。パスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインしていることを確認します。
2. `Start /w ocsetup IIS-WebServerRole` コマンドを実行します。IIS-WebServerRole が役割を示す文字列となります。役割の文字列は大文字と小文字を区別しますので注意してください。コマンドが終了すると、再起動を促すメッセージが表示されますが、ここでは再起動を行わないでください。

### 注意

`Start /w ocsetup IIS-WebServerRole /uninstall` と入力すると、WEB サーバー (IIS) 役割がアンインストールされます。

## オプション機能のインストールの概要

インストールが完了し、サーバーを使用できるように構成したら、オプション機能をインストールできます。Windows Server 2008 の Server Core インストールでは、次のオプション機能がサポートされます。

- Microsoft クラスタ サーバー
- ネットワーク負荷分散
- UNIX ベース アプリケーション用サブシステム
- バックアップ
- マルチパス IO
- リムーバブル記憶域の管理
- BitLocker ドライブ暗号化
- Simple Network Management Protocol (SNMP)
- Windows Internet Name Service (WINS)
- Telnet クライアント

次の手順では、Windows Server 2008 の Server Core インストールを実行しているサーバーに、これらの機能をインストールする方法を説明します。

### 注意

クラスタ サーバーは、Windows Server Standard Edition では使用できません。

### Server Core でオプション機能をインストールする場合の前提条件

次のオプション機能には、各機能を使用できるように、適切なハードウェアが必要です。

- クラスタ サーバー
- ネットワーク負荷分散
- マルチパス IO
- リムーバブル記憶域
- BitLocker ドライブ暗号化

### 注意

オプション機能に必要なハードウェアの詳細については、このドキュメントの後半にある「関連リソース」を参照してください。次のオプション機能については、前提条件はありません。

- UNIX ベース アプリケーション用サブシステム
- バックアップ
- Simple Network Management Protocol (SNMP)
- Windows Internet Name Service (WINS)

- Telnet クライアント

### Server Core でオプション機能をインストールするための手順

Windows Server 2008 の Server Core インストールでオプション機能をインストールするには、`ocsetup.exe` コマンドを実行します。有効なオプション機能を参照するには、コマンドプロンプトから `oclist` と入力してください。出力結果には、インストール可能な役割やオプション機能の状態が含まれています。

オプション機能をインストールするには、コマンドプロンプトより以下のコマンドに続けてオプション機能を表す文字列を指定します。

`Start /w ocsetup <機能名>`

機能名には以下に示す文字列を指定します。

クラスタサーバー: `FailoverCluster-Core`

ネットワーク負荷分散: `NetworkLoadBalancingHeadlessServer`

UNIX ベースアプリケーション用サブシステム: `SUACore`

マルチパス IO: `MultipathIo`

リムーバブル記憶域: `Microsoft-Windows-RemovableStorageManagementCore`

BitLocker ドライブ暗号化: `BitLocker`

---

#### 注意

`BitLocker` リモート管理ツールが必要な場合には、`Start /w ocsetup BitLocker-RemoteAdminTool` を使用します。

バックアップ: `WindowsServerBackup`

Simple Network Management Protocol (SNMP): `SNMP-SC`

Windows Internet Name Service (WINS): `WINS-SC`

Telnet クライアント: `TelnetClient`

---

いずれの場合も、アンインストールするには、`/uninstall` オプションを使用します。

## Server Core 管理の概要

Server Core ベースのサーバーは、次の方法で管理できます。

- コマンドプロンプトを使用してローカルおよびリモートで管理する。コマンドプロンプトで Windows コマンドラインツールを使用すると、Server Core ベースのサーバーをローカルで管理できます。



- ターミナル サーバーを使用してリモートで管理する。Windows を実行する別のコンピュータで、ターミナル サーバー クライアントを使用して Server Core ベースのサーバーに接続すると、Server Core ベースのサーバーをリモートで管理できます。ターミナル サーバー セッションのシェルが、コマンドプロンプトとなります。
- MMC を使用してリモートで管理する。MMC スナップインを使用すると、Windows を実行する他のコンピュータと同様に Server Core ベースのサーバーに接続できます。

### Server Core の管理に関する既知の問題

- すべての作業をコマンドラインから実行したり、MMC スナップインを使用してリモートで実行できるわけではありません。これらの設定を構成できるようにするため、Windows Server 2008 Server Core には次の操作に使用できるスクリプトが含まれています。
- ページファイルを構成する
- 自動更新を有効にする
- エラー報告を有効にする
- ターミナル サーバーのリモート管理モードを有効にする
- 以前のバージョンの Windows 上のターミナル サーバー クライアントから接続できるようにする

スクリプトは、Server Core ベースのサーバーの %Windows%System32 フォルダにあります。コマンドプロンプトでフォルダを開いたら、次のコマンドを使用して、上記のオプションの使用法の指示を表示します。

Cscript scregedit.wsf /?

/cli オプションを使用すると、一般的なタスクのコマンドラインリファレンスを参照することができます。

- すべてのコマンドプロンプト ウィンドウを閉じている場合に、新しいコマンドプロンプト ウィンドウを開くには、**Ctrl + Alt + Del** キーを押し、[タスク マネージャの起動] をクリックし、[ファイル] メニューの [新しいタスクの実行] をクリックして、**cmd.exe** と入力します。または、ログオフしてから再びログオンできます。
- エクスプローラの起動を試みるコマンドやツールは機能しません。たとえば、"start." は機能しません。
- Server Core では、Run はサポートされません。
- Server Core では、Runonce はサポートされません。
- Server Core では、html レンダリングまたは html ヘルプはサポートされません。
- Server Core では、マネージコードの実行はサポートされません。Server Core ベースのコンピュータでローカルに実行されるすべての管理ツールとユーティリティは、ネイティブの Microsoft Win32® コードで記述されている必要があります。

- ライセンス認証、新しい更新プログラム、パスワードの期限切れなどの通知には、Server Core では表示されません。これらの通知には、Server Core インストールに含まれないエクスプローラ シェルが必要なためです。
- 管理者のパスワードをマスクしてセキュリティ保護する必要がある Server Core の管理用スクリプトを記述する必要がある場合は、Microsoft TechNet (<http://www.microsoft.com/japan/technet/scriptcenter/resources/qanda/feb05/hey0204.msp>) の「InputBox を使用してパスワードをマスクすることはできますか」を参照してください。
- Server Core では、Windows インストーラ ファイルからツールとユーティリティをインストールできるように、Quiet モードの Windows インストーラがサポートされています。
- Windows Firewall は、コマンドラインから `netsh firewall` を使用して構成することができます。
- 2008 Server Core を実行しているコンピュータでタイムゾーンを変更するには、`control timedate.cpl` を実行します。
- 2008 Server Core を実行しているコンピュータで地域の設定を変更するには、`control intl.cpl` を実行します。
- リモートコンピュータからディスク管理を行う場合には、`net start VDS` コマンドを実行して仮想ディスクサービスを起動しておく必要があります。
- バージョン情報は、`systeminfo.exe` コマンドを実行して参照することができます。

## Server Core を管理するための手順

以下の手順では、Server Core を実行しているコンピュータを管理するための各方法を示します。次のような方法があります。

- Server Core をコマンドラインからローカルで管理する
- Server Core をコマンドラインからリモートで管理する
- Server Core をコマンドラインからリモートシェルで管理する
- ターミナル サーバーを使用して Server Core を管理する
- Microsoft 管理コンソール (MMC) を使用して Server Core を管理する
- Server Core ベースのサーバーにハードウェアを追加する
- Server Core ベースのサーバーにインストールされているドライバの一覧を取得する

### Server Core をコマンドラインからローカルで管理するには

- Server Core ベースのサーバーを起動します。
- 管理者アカウントを使用してログオンします。
- コマンドプロンプトが表示されたら、作業に適したコマンドライン ツールを使用します。

#### 注意

コマンドライン ツールの詳細については、「コマンドライン リファレンス」 (<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/ja/library/552ed70a-208d-48c4-8da8-2e27b530eac71041.msp?mfr=true>) を参照してください。

### Server Core をコマンドラインからリモートで管理するには

WinRS.exe を使用すると、リモートから Server Core ベースのコンピュータのコマンドラインツールとスクリプトを実行できます。WinRS.exe の構成および使用方法の詳細については、WinRS.exe /? でヘルプを参照するか、WinRS に関するドキュメントを参照してください。

Server Core ベースのサーバーを WinRS.exe コマンドで管理するには、必要なポートを Server Core 側で例外として定義されている必要があります。例外を有効にするには、Server Core ベースのサーバーで、WinRM QuickConfig コマンドを実行します。

例えば、SYC-SC-2 上で WinRM.exe QuickConfig を実行後、SYC-DC-1 のコマンドプロンプトから以下のコマンドを実行すると、SYC-SC-2 のディレクトリ一覧を取得することができます。

```
WinRS.exe -r:SYC-SC-2 dir c:\
```

### ターミナルサーバーを使用して Server Core を管理するには

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンで以下の手順を実行します。
2. パスワード `pass@word1` を使用して `WOODGROVEBANK¥Administrator` としてログインしていることを確認します。
3. `Cscript C:¥Windows¥System32¥Scregedit.wsf /ar 0` と入力します。
4. これにより、ターミナルサーバーのリモート管理モードで接続を許可できるようになります。
5. さらに、`netsh firewall set portopening TCP 3389 TerminalService Enable Custom 192.168.1.1` コマンドにより、SYC-DC-1 からのターミナルサービスポートへの着信を許可します。
6. NYC-DC-1 バーチャルマシンでパスワード `pass@word1` を使用して `WOODGROVEBANK¥Administrator` としてログインします。
7. NYC-DC-1 バーチャルマシンで、[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。 `mstsc` と入力し、[OK] をクリックします。

#### 注意

以前のバージョンの Windows でターミナルサービスクライアントを実行している場合は、Server Core ベースのコンピュータで `cscript C:¥Windows¥System32¥Scregedit.wsf /cs 0` を実行して、Server Core の既定で設定されている高レベルなセキュリティを無効にする必要もあります。


8. [コンピュータ] ボックスに Server Core ベースのサーバーの名前 `NYC-SC-2` を入力し、[接続] をクリックします。
9. パスワード `pass@word1` を使用して `WOODGROVEBANK¥dbarber` として TS セッションにログオンします。
10. 次に、[送信] をクリックします。
11. [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をク

リックします。

 **注意**

TSセッションで NYC-SC-2 という名前を使用して接続できない場合は、  
[リモート デスクトップ接続] ダイアログ ボックスに IP アドレスを入力し  
ます。

12. TS セッション内のコマンドプロンプトが表示されたら、Windows コマンドライン ツールを使用してコンピュータを管理できます。

 **注意**

コマンドライン ツールの詳細については、「コマンドライン リファレンス」(<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/ja/library/552ed70a-208d-48c4-8da8-2e27b530eac71041.msp?mfr=true>) を参照してください。

12. リモートでのコンピュータの管理が完了したら、コマンドプロンプトで **logoff** と入力し、**Enter** キーを押して、ターミナルサーバーセッションを終了します。

## MMC スナップインを使用して Server Core を管理するには

### 注意

次の手順は情報提供のみを目的としているため、この演習で実行しません。

事前に **netsh advfirewall set currentprofile settings remotemanagement enable** を実行してリモート管理を有効にしておく必要があります。

- Server Core ベースのサーバーがドメインに所属していない場合、クライアント上のコマンドプロンプトで次の手順を実行して、サーバーへのセッションを確立します。
  - **Net use \* %ServerName% /u:UserName**  
説明：
    - *ServerName* には、Server Core ベースのサーバーの名前を指定します。
    - *UserName* には、管理者アカウントの名前を指定します。
  - パスワードが要求されたら、前の手順で指定したユーザー名のパスワードを入力します。
  - [コンピュータの管理] などの MMC スナップインを起動します。
  - 左ウィンドウのツリー最上部を右クリックし、[別のコンピュータへ接続] をクリックします。[コンピュータの管理] の例では、[コンピュータの管理 (ローカル)] を右クリックします。
  - [別のコンピュータ] ボックスに Server Core ベースのサーバーのコンピュータ名を入力し、[OK] をクリックします。
- これで、Windows Server を実行している他のコンピュータと同様に、MMC スナップインを使用して Server Core ベースのサーバーを管理できます。

## Server Core ベースのサーバーにハードウェアを追加するには

### 注意

次の手順は情報提供のみを目的としているため、この演習で実行しません。

- 新しいハードウェアをインストールするには、以下の指示に従います。
- ハードウェアのドライバが Windows Server 2008 RC1 に含まれている場合は、プラグアンドプレイが起動され、ドライバがインストールされます。
- ハードウェアのドライバが含まれていない場合は、次の手順に進みます。
- Server Core ベースのサーバーの一時フォルダにドライバファイルをコピーします。
- コマンドプロンプトで、ドライバファイルがあるフォルダを開き、以下のコマンドを実行します。

#### **Drvload driveinf**

説明:

- *driveinf* には、ドライバの *inf* ファイルのファイル名を指定します。
- 要求されたら、コンピュータを再起動します。

## Server Core ベースのサーバーにインストールされているドライバの一覧を取得するには

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンにパスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインします。
2. **sc query type= driver** と入力し、**Enter** キーを押します。表示される情報をすべて確認します。

### 注意

正常に完了するには、コマンドの等号 (=) の後ろにスペースを含める必要があります。

## サービス名を削除するには

1. NYC-SC-2 バーチャルマシンにパスワード **pass@word1** を使用して **WOODGROVEBANK¥dbarber** としてログインします。
2. **sc delete service\_name** と入力します。
3. 説明 *:service\_name* には、上記の **sc query type= driver** コマンドを実行して取得した任意のサービスの名前を指定します。

### 注意

上記のコマンドを実行すると、レジストリからサービス名が削除されます。

## 関連リソース

Server Core の関連情報については、以下のリソースを参照してください。

- 製品サポートが必要な場合は、Microsoft Connect Web サイト (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=49779>) を参照してください。
- Server Core のニュースグループにアクセスするには、Microsoft Connect Web サイト (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=50067>) の指示に従ってください。
- ベータ テスタまたは特別な TAP (Technology Adoption Program) ベータ プログラムに参加している場合は、Microsoft 開発チームの担当メンバから支援を受けることができます。
- **Server Core** : [http://blogs.technet.com/server\\_core/default.aspx](http://blogs.technet.com/server_core/default.aspx) (英語)
- Server Core TechNet フォーラム : <http://forums.microsoft.com/TechNet/ShowForum.aspx?ForumID=582&SiteID=17> (英語)
- Server Core SDK : <http://msdn.microsoft.com/library/en-us/srvcore/srvcore/portal.asp> (英語)

以下のリソースでは、Server Core の構成およびサーバーの役割のインストールと構成に使用される一部のコマンドについての関連情報を提供します。

### Active Directory

#### Active Directory

(<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/technologies/directory/activedirectory/default.mspx>)

### バックアップ

#### データをバックアップおよび回復する

(<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/ja/library/ServerHelp/11ffd7cd-29f0-481c-939b-cc43e2874233.mspx?mfr=true>)

### BitLocker ドライブ暗号化

#### BitLocker Drive Encryption Overview

(<http://windowshelp.microsoft.com/Windows/en-US/Help/6035e2fd-ee50-4b74-9bfb-6c27bb6bf2201033.mspx>) (英語)

### クラスタ サーバー

#### クラスタ サービス

(<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/technologies/clustering/default.mspx>)

### Dcpromo の無人ファイル

#### Performing an Unattended Installation of Active Directory

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=49661>) (英語)

### DHCP

#### Dynamic Host Configuration Protocol

(<http://www.microsoft.com/technet/network/dhcp/default.aspx>) (英語)

Dfscmd

Dfscmd

(<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/ja/library/ServerHelp/bd3bc105-9245-49c2-bc5a-e7ffa994943e.mspx?mfr=true>)

分散ファイル システム

分散ファイル システム (DFS)

(<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/ja/library/ServerHelp/370f16f9-dd08-45dc-8cf2-d9e2bfeada88.mspx?mfr=true>)

分散ファイル システム レプリケーション

Distributed File System Replication (<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa379542.aspx>) (英語)

DNS

Windows Server 2003 Domain Name System (DNS)

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=56422>) (英語)

Dnscmd

Dnscmd Overview (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=49656>) (英語)

Dnscmd Examples (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=49660>) (英語)

ファイル レプリケーション サービス

What is FRS? (<http://technet2.microsoft.com/windowsserver/en/library/997eb538-387d-4086-97ee-ccc16ff8788e1033.mspx?mfr=true>) (英語)

ファイル サーバー

ファイル サービスとストレージ サービス

(<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/technologies/storage/default.mspx>)

マルチパス IO

Microsoft Storage Technologies - Multipath IO

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=11264>) (英語)

Netsh

Netsh の概要 (<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/ja/library/61427fbd-de1f-4c8a-b613-321f7a3cca6a1041.mspx?mfr=true>)

ネットワーク ファイル システム

Performance Tuning Guidelines for Microsoft Services for Network File System

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=62727>) (英語)

リムーバブル記憶域の管理

Removable Storage Manager (<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa380930.aspx>) (英語)



UNIX ベース アプリケーション用サブシステム  
UNIX ベース アプリケーション用サブシステムへようこそ  
(<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/ja/library/695ac415-d314-45df-b464-4c80ddc2b3bc1041.mspx?mfr=true>)

## 関連リソース

Windows Server 2008 のプレリリースバージョンおよびサーバー マネージャ機能の関連情報については、以下のリソースを参照してください。

- Windows Server 2008 の詳細については、Microsoft Windows Server 2008 製品 Web サイト (<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/default.aspx>) を参照してください。
- サーバー マネージャなどの Windows Server 2008 管理ツールに関する支援を受けるには、Windows Server 2008 の技術情報を交換する TechNet フォーラム (<http://forums.microsoft.com/TechNet/ShowForum.aspx?ForumID=575>) (英語) にアクセスしてください。
- セキュリティの詳細については、マイクロソフトのセキュリティセンター Web サイト (<http://www.microsoft.com/japan/security/guidance/default.aspx>) を参照してください。

## Technology Adoption Program サポート

ベータ テスタまたは TAP (Technology Adoption Program) に参加している場合は、Microsoft Connect Web サイト (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=49779>) から TAP チームに連絡してください。